**アンケートピックアップ**

**1月15日　グロービス・キャピタル・パートナーズPartner/Chief Strategy Officer高宮慎一氏**

**株式会社うちゅう　株式会社SAgri　代表取締役社長　坪井俊輔氏**

**問１ 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

ベンチャーを立ち上げた方と出資する立場にあるVCの方の両方の話を聞くことができ、両側の見方を聞くことができたので、とても面白かったです。坪井さんは、自分の興味のあることをやるという入口であるにも関わらず、現在二千万の売上を上げているのはすごいと思いました。金儲けのために始めていないからこそ、多くの方や機関からの出資や補助を得ることができたのではないかと思います。目的などの矢印がはっきりした起業が、多くの出資を受けることができるstartupsの特徴なのかなと思いました。講演者のお二人の話をもっと聞きたかったです。（経営学部　1年）

今回の講義で心に残ったことは、学生時代はノーリスクでありノーダメージだという言葉です。これは学生の間での起業について言われた言葉ですが、僕は全てについて通じることだと思いました。このようなことに加えて、投資・出資について普段聞くことができないことを聞くことができてよかったです。どのように資金を調達するのかは最近気になっていて調べていたことだったのでとても参考になりました。今回の高宮さんと坪井さんのお話で起業をするような人は明確なビジョンを持っておられると思いました。おっしゃられたようにお金を稼ぐための会社経営ではないと改めて知りました。難しいところもあったのでより知識を養っていきたいです。(経済学部 1年)

資金調達の目的は様々であり、どの方法を取るのが正解というのは一概には言えないということがよくわかった。銀行からの借り入れは金利が低い一方で銀行からすると貸し倒れたくない、VCから調達する場合は求められる成長率が高く、結局資本コストが高くつくこともあるなど、目的と現状に合わせて資本コストを最小限にする経営者の腕の見せ所だと思いました。（教育人間科学部　人間文化課程　3年）

起業家とVCという2つの立場からのお話が聞けてより深まったと思います。自分が企業をするとなったときに自分のやりたいことがスケールを目指すことなのか堅実に積み重ねることなのかをよく考えたいと思いました。(経済学部　1年)

資金が22～23万円あれば、ネットで５分程度で会社の基盤ができてしまい、届け出れば簡単に会社ができてしまうというのは驚きだった。仕事というのはいずれはしなくてはならないもので、既にある会社から自分が就職したいと思えるところに就職するものだと長年思っていたけれど自分で自分のやりたいと思うことを仕事にするという発想がこの授業で新しく生まれた。厳しい状況の中で投げ出されずに続けられるような打ち込める仕事を見つけるのも大変だと思った。（理工学部化学生命系学科　２年）

お二人のお話はどちらも興味深かったです。特に坪井さんは私と同じ横国の理工学部出身でご自身の会社を立ち上げているということもあり、今の私の状況を学生時代の坪井さんの状況を比べてみたり、もし自分が坪井さんだったらと考えることもでき、共感したりハッとさせられることも多かったです。大学生特有のモラトリアムに甘えず、休学を選んで自分が本当にやりたいことをする行動力に感銘を受けました。「うちゅう」は宇宙科学分野に特化した教室だと思うので、宇宙以外にも科学や歴史分野での「うちゅう」のような事業ができるといいと思いました。（理工学部　２年）

高宮さんの「VCからの調達≠良い事業」という言葉はその通りだと思いました。最近読んだ本に「手段の目的化は良くない」とありました。事業を成長させる手段としての資金調達であるので、事業が成長という目的に合った手段を選ぶことは大切だと思いました。（経営学部　1年）

起業・学生起業における資金調達の種類やその困難等を知ることが出来た。VCから資金調達をすると、その後の経営において企業の成長を優先させて自己実現を先延ばしにせざるをえない点があることを初めて知りました。（経営学部　1年）

坪井さんのお話では、「自分が夢の大切さを知っているからこそ、それを広めるためのビジネスをしている」という思いを学びました。坪井さんと高宮さんの会話の中に、事業を行う際にお金や権力をモチベーションにすることについてどう思うかという内容がありました。その時に、坪井さんが自分の事業をすることで困っている人を救えるということを考えるべきだとおっしゃっていたのが素敵だなと思いました。ビジネス展開を発展途上国にまで考えていると所も素晴らしいと思いました。（経済学部　1年）

「休学」という、普通なかなか決断できないことに踏み切ったことがすごいなと思いました。20数万円あればすぐに企業を立ち上げることができ、自分のやりたいことが決まっているなら学生でも事業を運営できると言われ、自分のやりたいことが既に決まっている人がいることに圧倒されました。自分のやりたいことが「お金稼ぎ」なのか「自分の夢を追いかける」ことなのか、そしてお金稼ぎのための企業はやめるべきということが印象に残りました。また、銀行がベンチャー企業に融資をするにあたり、とても厳しい審査があることに驚きました。　経済学部　１年）

ビジネスは熱があればできるという言葉が印象に残った。２社の会社を立て課題解決や夢に向かって取り組んでいる姿が羨ましいし憧れとなった。まずは自分は夢を忘れている気がするし、今はなんとなく生きているような気がして悔しい気持ちになった。教育学部ということもあって投資にはなしにしっかりついていくことはできなかったが資料を読んで理解を深めたい。宇宙の教育についてだが、昔星に興味があった自分からすると非常に魅力的だった。（教育人間科学部　学校教育過程学科　３年生）

現在大学を休学し、事業を行なっているという話は伺っておりましたが、私は事業を行うまでの坪井さんの人生のプロセスがとても印象に残りました。自分が持っていた夢を思い出す、という言葉は自分の中でも反芻すべきだと考えました。今現在、私は１つの資格に向けて勉強を続けていますが、そこに自分の感情がどれだけ入り込んでいるか、というのをもう１度再認識しようと思います。ベンチャーのような１つの物事に飛び込んでいくのは今がチャンスであり、リスクも大きくない、というようなお話も聞こえてきましたが、それを聞くと自分もビジネスを行うことができるのではないかと夢を見ることができました。(経済学部　１年)

私も「子供たちが抱く夢や目標を達成する、夢を持てるような支援をしたい。」という思いがあります。そのため、坪井さんのように「周囲の環境で夢をあきらめなければならない、夢を持てない子供たち」を支援する事業は非常に興味深かったです。私は教育学部なので「子供の支援＝学校関係者」という印象が強いですが、「こんなやり方もあるのか」と新しい気づきを得ました。（教育人間科学部　学校教育　3年）

**問２ 今後のアクションにつなげていきたいこと**

リスクを恐れず行動することで、何かを失うかもしれないが、得られるものも大きいということを学びました。また、宇宙と農業のように一見関係ないものを結びつける発想も、これからの時代には必要だと思います。自分の何か新しい価値を社会に生み出せるように努力したいです。（経済１年）

自分のやりたいことを見つめなおし、そこに1ミリでもかかりそうなことがあればすぐに取り組む。まずは新聞、ニュースを見ること、そして電子媒体ではなく昔好きだった紙の本を読む。（経営学部　1年）

自分がどのリスクをとりたいのか、そのリスクをどのような形でとろうとするのかを考えてみたいと思う。高宮さんのように膨大な知識を背景とした知性を持って客観的で冷静に、現状の構造を見つめられるようになりたい。(経済学部　１年)

「フリーの会社設立」を調べてみて会社の立ち上げ方について学んでみようと思います。実際に行動してみることで、知識が増え、考えもより深まると感じました。ファイナンスについては講義の知識のみでアウトプットができていない現状なので、一度資金調達の経験をしようと思いました。(経営学部　1年)

周りの環境に依存し自己実現できないという言葉が印象に残りました。私も周りの意見に流されやすく、自分で決意することが少なく、自分が嫌になることがあります。自分で実現したい将来を明確にして、周りの環境にも依存せずに将来を決めたいと思いました。理念の軸も非常に素敵でした。(経営学部　1年)

**授業スタッフの感想**

今回のディスカッションは私が本講義の中で最も楽しみにしていた回であった。なぜなら自分が今興味を持っている宇宙分野の第一線で活躍されている坪井さんのお話を聞くことができるからである。実際、現在丹波市で行っていらっしゃる衛星データを用いた農業支援について詳細に伺うことができ、大変勉強になった。また、高宮さんに関しては日本で最も影響力のあるベンチャー投資家ランキングで1位になられただけあって一言一言に重みを感じた。ディスカッションの中では仮想通貨の話がでてきたが難しくて十分理解することができなかったので、知識を養おうと思う。

坪井さんのような「普通」ではない大学生は奇異の目で見られることもあると思いますが、実際に坪井さんの話している様子はいきいきしていて素敵でした。夢を追いかける人から溢れるエネルギーは非常に大きいと感じました。また、高宮さんとのセッションでは、この授業の中でも深い資金調達の話を聞くことができて、興味深かったです。